

絶滅危惧種ヒガシシナアジサシの「繁殖コロニー復元プロジェクト」が成果を挙げる

2013年10月4日(金)



鉄墩島に集まったオオアジサシ

2013年7月25日

写真提供: 丁鵬

絶滅危惧 I A 類のヒガシシナアジサシの繁殖コロニーは、これまで福建省沖の馬祖諸島と浙江省の五峙山諸島の 2 ヲ所しか知られていませんでした。ところが、今年の夏行われた革新的なアジサシ・コロニーの復元プロジェクトにより、もう一つのコロニーが出来ました。

今年の初め、かつてヒガシシナアジサシが繁殖していた蕪山諸島の鉄墩島と呼ばれる小島がコロニー復元のために選ばれました。復元チームは、ヒガシシナアジサシが戻って来るとい希望を持てるまでに数年はかかるだろうと考えていました。チームの計画は、デコイ(鳥の模型)とアジサシの声を流すことで、先ずオオアジサシを鉄墩島に呼び込むことでした。ヒガシシナアジサシは常にオオアジサシの大コロニーの中に営巣するため、オオアジサシが最初に島にコロニーを作り、その個体数が徐々に増えた後に、ヒガシシナアジサシが続くだろうとチームは期待していました。

ところが、最初の試みで 9 月末までにはかなりの規模のオオアジサシの新コロニーが鉄墩島に作られ、数百羽の幼鳥が育ち、その中に少なくとも 1 羽のヒガシシナアジサシが巣立ったのです。



鉄墩島上空を飛ぶヒガシシナアジサシの若鳥

2013年9月28日

写真提供： 范忠勇

2013年5月の初めに象山海洋・漁業局、韭山諸島国立自然保護区、浙江省自然史博物館およびオレゴン州立大学によるチームが鉄墩島の植生を整地し、アジサシのデコイ300個を置きました。太陽電池で稼動する音声再生装置がデコイの間に置かれ、五峙山諸島のコロニーで録音されたオオアジサシとヒガシシナアジサシの接触声を流しました。

数羽のオオアジサシが6月第1週に現れ、初期の営巣行動を示しましたが、数日留まっただけで飛び去りました。これだけでもこのプロジェクトの最初のシーズンは成功したと考えられました。続く5週間はアジサシの飛来の様子が全く見られなかったことから、今年の繁殖シーズンは終わったと考えられ、モニタリングも中止されました。



新たに置かれたデコイと接触声再生装置

写真提供： © Stefanie Collar

バードライフ・インターナショナル、香港バードウォッチング協会、オレゴン州立大学、浙江省自然史博物館および蕙山諸島国立自然保護区の研究者で構成される前回とは別のチームが7月中旬に島を訪れ、再生装置を再起動しました。驚きと嬉しいことに、すぐに数羽のオオアジサシが接触声に引き寄せられ、デコイの上を飛ぶのが観察されたのです。その数は数日のうちに数百羽に増え、7月末までに最大数 2,600 羽のオオアジサシが記録され、そのうちの数百ペアが産卵を行い、抱卵を始めました。その群れの中に 19 羽のヒガシシナアジサシの成鳥が混じっていましたが、この数は 1 回の観察例としては、この鳥が 2000 年に再発見されて以来の最大数です。少なくとも 2 ペアが産卵を行い、抱卵を始めました。モニタリングを困難にした何回かの台風の襲来にもかかわらず、9 月末までにおよそ 600 羽のオオアジサシと少なくとも 1 羽のヒガシシナアジサシが巣立ちに成功しました。



鉄墩島で給餌を受けるオオアジサシの雛たち

2013年9月28日

写真提供：范忠勇

今回の成功を非常に喜んで、象山海洋・漁業局の副理事の兪明泉氏はこのコロニー復元プロジェクトについて次のように話しました。「私たちは蕪山諸島国立自然保護区の管理を十分に行うために出来る限り尽力し、また象山のアジサシのコロニー保護のため一層の支援を期待しています。」

「鉄墩島での成功はこの地域での現在の自然保護活動にとっての画期的出来事です。このような困難が予想された復元プロジェクトが初年度からこれほど上手く行くとは誰も思わなかったでしょう。これは良いアイデアと地元からの力強い献身、そして少しばかりの運があればこのようなことが起きることを示しているのです。」とバードライフ・アジアディビジョン主任研究員のシンバ・チャンはプロジェクトの成果を受けてコメントしています。

バードライフの‘絶滅阻止プログラム’の責任者ジム・ローレンスも次のようにコメントしています。「これはしっかりとした科学的知見、地元の啓発および戦略的な資金支援に支えられた時に国際協力によって達成された保護活動の素晴らしい成功例です。関係者全員にお祝いを述べます。」

バードライフの‘絶滅阻止プログラム’プロジェクトは地球環境基金(日本)、米国野生生物部、香港海洋公園保護基金およびバードライフ・インターナショナル支援者のマーク・コンスタンチン等々の国際的資金提供者の支援を受けています。中国においては象山海洋・漁業局、韭山諸島国立自然保護区および浙江省自然史博物館がこれに相応する必要資金を提供しました。これら中国の3組織は中国での自然保護活動で協力し、このプロジェクトが初年度からこのように明らかな成功を収めるための後方支援を行ったのです。